

広報 なかがしま 4月号



旧大橋の交通制限決定も

4月1日から

完成した公営住宅10棟目



小浦団地の10棟目が完成
これで126戸 9棟目まで入居率100%

沖浦の小浦団地に、さらに公営住宅一むね十六戸がこのほど完成町では回覧文書や有線放送でこのことをおしらせして、二月二十三日から三月十三日まで入居希望者を募集しました。

こんど完成したのは十棟目で、総工費八千五百九万八千円、構造はこれまでのものと同様同じです。これで二百戸を目標とした大規模住宅団地計画に基づき百二十六戸ができましたことになりました。

九棟目までの百十戸の入居率は一〇〇%と好評で、まだまだ住宅の必要性が感じられます。

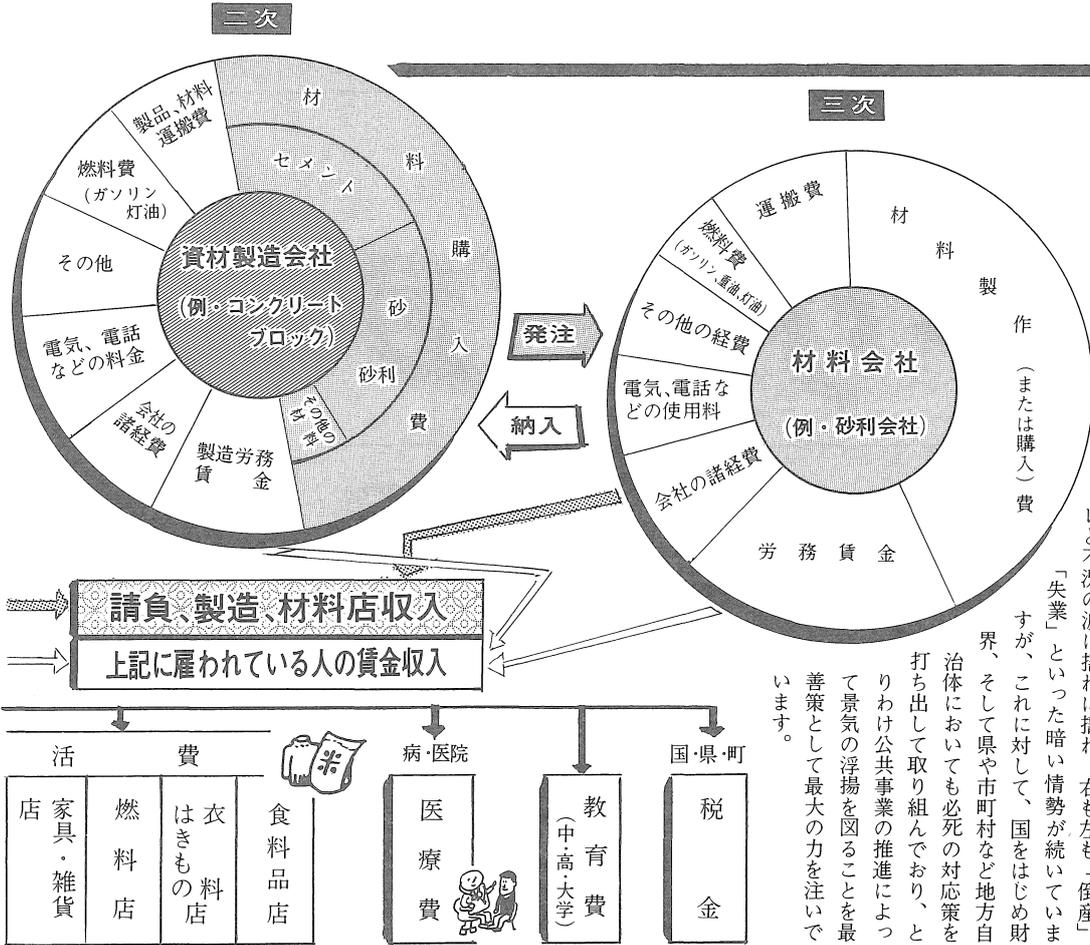
2トン車以内 幅は普通車程度まで

新長浜大橋の完成、旧長浜大橋の県道橋としての存続決定など、橋の話題をめぐっては明るいニュースが続いていますが、残るもう1つの橋の問題、すなわち旧長浜大橋の今後の交通制限について、このほど愛媛県から通達があり、この4月1日からは①重さは2トン車以内②幅は普通自動車程度まで…とすることになり、心配されていたマイカー（ただし制限内）の通行には支障のないものとなりました。

2トン車以上の車などの通行を禁止した制限の理由は新長浜大橋を建設しなければならなかったことと同じで、すなわち、旧大橋は昭和10年につけられたものであることから老朽化もいちじるしく、潮風による鋼材の腐食状態も非常に進んでおり、耐荷力も低下して重量車の交通には絶えられないものとなっているため。そして、今後この橋をより長期間存続させてゆくには、この範囲の制限が必要であるためです。

私たちの暮らしに極めて重要な、しかも文化財的にもその価値の高いこの名橋が、いつまでも存続してくれることを願って、皆さんのいたわりと、この制限に対するご協力をお願いいたします。

公共事業とそのメリットを見る



昭和四十八年の石油ショック以後、日本経済もインフレと不況の波に揺れに揺れ、右も左も「倒産」

「失業」といった暗い情勢が続いてい

ますが、これに対して、国をはじめ財界、そして県や市町村など地方自治体においても必死の対応策を打ち出して取り組んでおり、とりわけ公共事業の推進によつて景気の浮揚を図ることを最善策として最大の力を注いでいます。

このような情勢の中で、私たちの長浜町では、昭和四十七年一月に独自で策定している長浜町振興基本構想に添って町政推進にとり組む一方、国のこの方針と相まって五十一、五十二年と引き続き公共事業の推進による景気浮揚策を重点施策の第一点に取り上げて実施してきており、時代の変化に対応できる交通通信体系の整備、産業基盤の充実、それに日常生活に直結する生活環境整備などを中心に、必要度の高いものから強力に推進しています。

さらに私たちの町では、このたび国会で可決した建設事業推進のためのいわゆる「十五か月予算」なる施策とも相まって、さらに五十三年度もこの対応策を引き続き重点施策の第一点に打ち出して推進してゆく考えです。

さて、こうした中であつて、皆さんの中には、この公共事業の推進がなぜ景気浮揚に、なぜ国民あるいは私たち町民のふところに関係あるのか、「建設業者など特定の者だけで、われわれには関係ないじゃないか」……と思われている方も多いのではないでしょうか。そこで直接あるいは間接的に私たちの町の、あるいは私たちの景気浮揚にどうつながっているか、ここでは道路の新設改良事業が及ぼす影響を例に、図を用いてご紹介してみました。

【図説】総合

つてゆくこととなります。

このうち建設請負業者や関連業者自身以外の方へのメリットを拾い上げてみますと、まず、業者に雇われている従業員の賃金の安定あるいは増額につながるほか、この事業を行う上でさらに従業員が必要となり、低迷している農林、漁家、失業されている方々にも職場や賃金を与える、すなわち所得を補うことにもなります。

そして、この賃金の安定・増額・確保は、やがて消費、投資、預貯金、税金などの形で、私たちの町の商店や企業、公共機関などに

メリットをおよぼすことになるわけであり、たとえば食料品や衣料品、燃料店、家具店、文具店、その他いろいろな店舗の購買量の増大につながるほか、金融機関の預貯金、税金の増大にもつながります。もちろん、これらのことは請負った建設業者や関連業者自身でも大口の形で物品を消費したり、金融面での取り引きが起つたり、法人税に影響をおよぼしたりして地域の景気にメリットをもたらします。このほか通信、医療、輸送、自動車修理など、公共事業はあらゆる分野で地域の景気浮揚に極めて大きなメリットをもたらしてゆけるのです。

昭和五十三年度も四月からスタートします。このようなメリットがあることを十分ご理解頂き、今後公共事業の推進にご協力をお願いいたします。



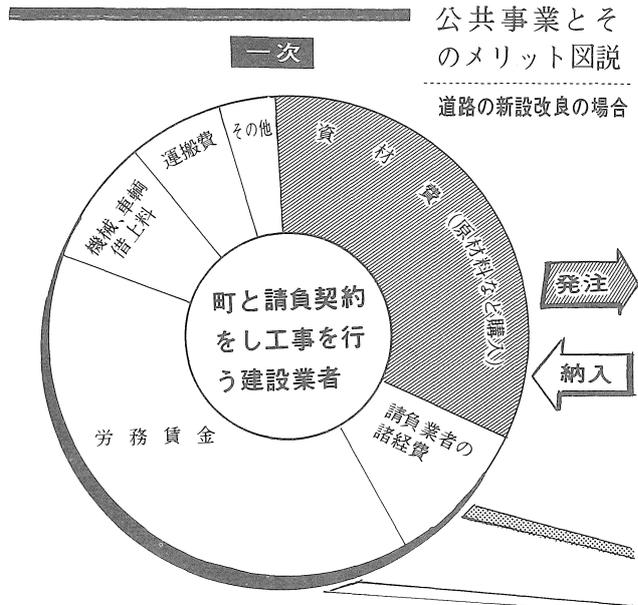
しおり

4月は祭り、花見のシーズン。近年、祭りのムードが下火がちな反面、花見行楽は盛

んなよう。春の陽気に満開となった桜の空をながめ、レンゲのジュータンに腰を下ろして手作り弁当を広げる家族づれを見るのは、いかにも健康的で明かるい。

4月9日は、歌謡ファンにとって待望の、都はるみショー、を長高体育館で開演。でき上がった「長浜音頭」も歌ってもらうことになって何より。

公共事業とそのメリット図説
道路の新設改良の場合



読者登場

地域総合教育が強くなければ、昨今、長浜町でも地域、家庭、学校が提携を密にして、望ましい人間関係の確立と郷土長浜の明るい未来を築くために総合教育を展開してまいります。去る二月二十六日長浜町中央公民館で、各種団体約百七十人が参加して公民館研究大会が開催されました。

最初に次の三つのテーマにより分科会がもたれました。①たくましい青少年を育てよう②おやじ・おふくろの味を強めよう③ふるさと長浜を見直そう。

私は二分科会に出席しました。出

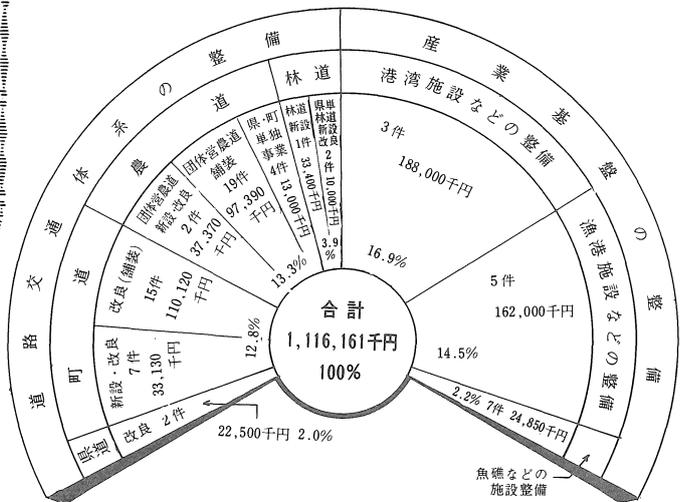
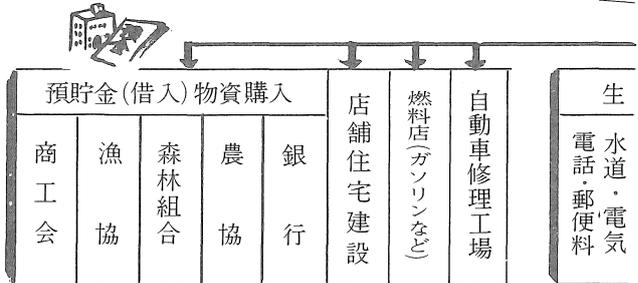
青少年の問題点など学ぶ
公民館研究大会に参加して



稲田 瀾子 (54歳)
下須戒・主婦

きていない自分を恥ずかしく思いました。続いて日本藤樹会々長・小出哲夫先生の「幸福を築く教育」と題して講演をうかがいました。その主なことは、①がまんする習慣②優しく親切にする習慣③正直にする習慣④従順

方から、それぞれ適切なご指導を頂き「父母の味とは、父母が一生懸命生きてみせることである」と結ばれました。私の印象に残ったことは、四十一人の皆さんが、おやじ、おふくろの味をより強めるために建設的な意見を発表しておられた真剣な姿でした。何一つで

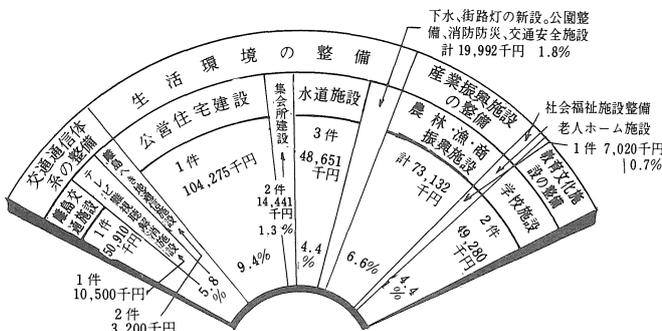


52年度1月末現在
の実施状況

参考として一月末現在の昭和五十二年の主な公共事業の実施状況をご紹介しますと次のグラフの通りです。

【図説】生活および産業基盤となります道路関係事業は三・〇%。公営住宅、公園、消防施設など生活環境を改善する事業が一六・九%。港湾漁港などの産業基盤を整備する事業が三三・六%。産業振興施設が六・六%。交通通信施設が五・八%。教育施設が四・四%。社会福祉施設が若干という構成となっております。

(注) 国道、県道、工事で町が負担金を出していない事業は含まれておりません。



患者が多い低受診率

5月にはもれなく受けよう

80%が40歳以上

かつての国民病と言われ、国内で昭和二十五年まで死因順位の首位を占めていた結核は、予防や医療態勢の充実などによっていちじるしく減少、今では第十位になりました。と言っても、それは結核がなくなつたといふことでもなければ、過去の病気になつたというわけでもなく、その順位は年齢が高まるにつれて上位となり、死亡率が高くなつてきているのが一つの特徴です。また、これを患者数で見てもその傾向を表わしており、たとえば、昭和



長浜町でのレントゲン検査は毎年5月と10月ごろの年2回行っていきます。

年一回は必ずレントゲンを
そこで、結核についても予防対策と早期発見が第一です。結核予防法により①四歳になるまで一回、ツベルクリン

このように患者率が高い原因を考えてみますと、その一因として長浜町では、十五歳以上の一般の方(学生や事業所などに雇用されている方は除く)に対して行われているレントゲン検査の受診率がグラフ1の通り他の市町村に比べて大変低く、さらに年々低下していることがあげられ、最近新たに患者として登録された人の場合を見てもやはり検査を受けていなかった人が多くを占めているのが実情です。

和五十一年十二月末の全国の登録患者数約六十七万人のうち五十万人余りは四十歳以上の人が占めており、これを長浜町内で見ますと、患者数は百三十八人で、このうち四十歳以上の方は約八〇%を占めています。さらに、この百三十八人という患者数は、人口の割合で見ますと大洲市、喜多郡内では表1のように河辺村に次いで二番目に高く、しかもこのような状態は今に始つたことではなく十数年前から変わつていません。まだまだ多くの方が結核にむしばまれていきます。

新たな患者もほとんどが...



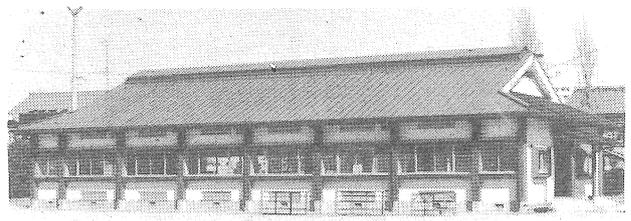
落成した道場は、現代の子にとかく欠けておろがちだといわれる心身の鍛錬を向上してゆくために建設されたもの。鉄筋コンクリート造り、屋根鉄板ぶき。平家建てだが外観はどつしりと落ち着いた和風。練習場は畳敷きの柔道場と板張りの剣道場が半分ずつ占めており、ほかに倉庫、物入れ、更衣室、洗面所などがあり、夜間の社会体育にも使用できる照明も設備されている。広さは全部で三百六十四平方メートル。去年の八月に着工、総工費二千二百六十万円と約七か月の月日をかけて完成したものだ。

待望の長浜中学校柔剣道場が完成、二月十四日に竣工式が行われた。

心身鍛錬の殿堂 長中柔剣道場が完成



新築成った道場で思い切り練習に励む長中柔剣道部員
れた式典には生徒も全員が出席、菊地町長が「道場の完成により本校武道が中学校教育振興の大きな柱となるよき」と式辞を。菊地教育委員長の告辞、菊地議長の祝辞、矢野校長の謝辞に次いで、同校剣道部主将の岩城清隆君がこの立派な道場にふさわしく心身を鍛え、優れた成績を残すよう毎日練習に励みたい」と感謝のことばを述べた。この道場が真に心身鍛錬の場として成果を上げるよう期待したい。



外装はこげ茶色。落ち着いた風格の柔剣道場全容

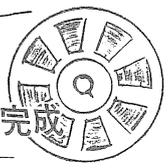
53年消防団出初式

昭和五十三年消防の門出を飾る長浜町消防団出初式は快晴に恵まれ、五人の署員が出動して行われ、来賓や一般多数が見守る中、ポンプ

れた三月五日、長浜中学校グラウンドに二宮義徳団長以下約四百六十人の団員、広域消防岸長浜支署長以下十

新長浜大橋開通

記録8ミリ映画が完成



新長浜大橋竣工開通記念のハミリ記録映画、題して「新しい橋」がこのほど完成しました。これは新長浜大橋が竣工開通した昭和五十二年十二月二十一日の祝賀行事を中心にその喜びの表情を町史に残しておくため、町が制作費十萬円をかけ、長浜の銀座フォートに撮影を依頼して制作したもので、三十分の記録映画です。

内容は、竣工および開通式の模様のほか、この工事を行った鹿島建設の協力もあつて着工から完成に至る建設工事経過の画面も押入されて立体的に構成されており、さらに長浜風(川霧)など周辺の描写、飛行機からの空中撮影などが画面を引き締めています。

町ではできる限り、集会などの機会を捕えて町内の皆さんに見て頂くことにしています。

集会などで活用

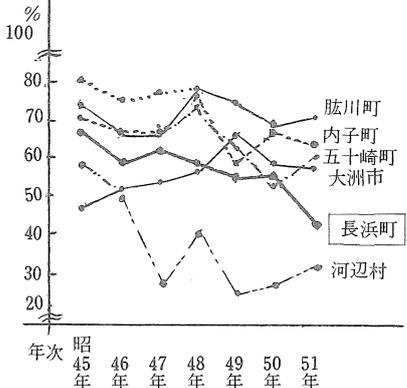
(表1) 市町村別結核登録患者数

市町村	患者総数	人口
長浜町	138人	13,624人
大洲市	318	38,759
内子町	97	14,533
五十崎町	41	6,633
肱川町	25	4,168
河辺村	26	2,385

(昭和51年12月末)

一般の方のレントゲン検診は、私たちの町では毎年五月と十月ごろの二回行っています。みんなで一年一回は必ずこの検診を受け、早期発見、早期治療により結核をなくしてゆきたいものです。

(グラフ1) 市町村別レントゲン検診受診率



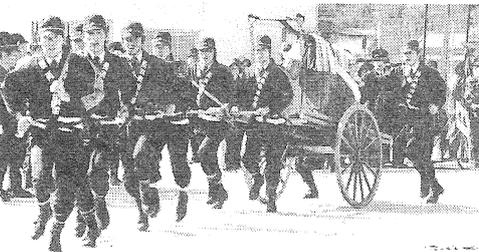
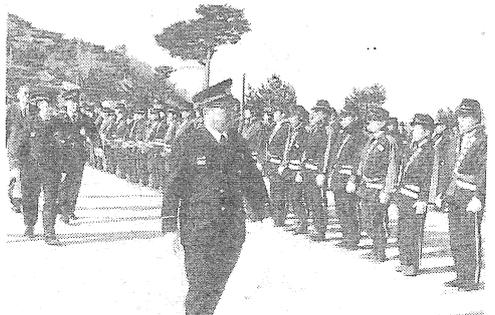
反応検査(ツ反)とBCG接種を行う②小学校一年と中学二年にはツ反を行い、陽性者にはX線間接撮影を行う。陰性者にはBCGを接種し、さらに翌年再びツ反を行つて陰性であれば再びBCGを接種する③十五歳以上の方は毎年レントゲン撮影を行うなどを定めており、これらをそれぞれの際に欠かさず受けることがまず大切である。



▷いざ放水開始ノ必死に腕用ポンプをこぐスタッフ。もの珍しさに多く取材陣も右往左往。



▽いざ出陣ノ威勢のよさでは現代消防にも引けをとらないこの姿。



「ポンプ操法今昔」とでも題しようか、ことしの出初式の呼びも、明治時代の腕用ポンプを使い、大正時代の操法を平均年齢二十歳の現代っ子消防署員がひろうした「消防演技」が予想通り好評を博し、式典に花を添えた。

直経一尺の車輪のついた大八車のような搬送車に腕用ポンプ、すなわち手押ポンプを積み、手綱をつけて十人がかりで引っぱる。あるいは後押しして勢いよく走り込む様子は、今とは一味異なる威勢があつて盛んな拍手。ところが肝心の操法となる

署員の熱演に拍手 明治のポンプ・大正の操法

本部長(菊地町長)や団長から服装点検を受ける団員

操法や分列行進、それに、ことしは消防署員による明治時代の腕用ポンプ(手押しポンプ)を使つての消防演技などを行つて、終始堂々の勇姿をひろうした。

また、続いて行われた消防活動に功労功績のあつた団員や一般協力者などに対する表彰式では、津田忠士副団長ほか百二十六人の団員、一団団、内助の功賞に衛生の清水クマ子さん、一般

と一動作ごとに号令が下る。しかもその動作はすべて足のヒザを曲げてはならないとあり、まるでオモチャの兵隊のようなユーモラスな動作に観衆の爆笑を呼んだ。

やがて放水態勢完了。テント用布地のバケツで「呼び水」なるものがポンプタンクにリレーで汲みこまれ(真空状態にするため)、いざ、ポンプ作動開始。三人ずつに分かれ全身の力をふりしぼつてポンプをこぐ様子がこれまで威勢よく拍手拍手。見くびるなかれやがて二十層もの水柱が陽春の青空に舞い上がった。が、こぎ手の顔つきも昇天の血色。この当り当時は人手がいかに必要か、そして、文明の力「自動ポンプ」がいかにありがたいかまざまざ。

このポンプ、明治十七年にドイツから四百五十円で輸入、国内の業者が一台当り三百四十五円で模造して国産化したというもので、お隣りの粟津水防倉庫(八多喜)に眠っていたのを四、五年前に署員が見つけた「歴史的な価値を生かして活用することにした」というわけ。

アレやコレやの資料をひもときみっちり訓練、門出に花を添えた署員一同に、敬礼“!!”

協力者では白滝の山本松造さんら五人がそれぞれ表彰された。(表彰された方々は七ページに紹介)引き続き町長式辞、県知事代理ら来賓多数の祝辞、団長訓辞、消防長あいさつなどがあり閉式。

このあと、長中プラスチックバンド隊を先頭に町内をパレードして火の用心を呼びかけた。なお、恒例の一斉放水は、旧長浜大橋が改修工事のため、今年には取り止められた。

明治44年4月1日以後生まれの方は 掛け金ナシでは年金もナシ

老齢福祉年金

声…私の近所のある72歳のお年寄りは国民年金をもらっていますが、聞くところではこの人は掛け金をかけていないのにもらっているということでした。それは老齢福祉年金とかいうのだそうです。実は私も年金の掛け金をかけていませんが、70歳になったら年金がもらえるのでしょうか。（…ことし66歳の一老人）

お答え…現在70歳以上のお年寄りが受けている国民年金の老齢福祉年金は、だれでも70歳になれば支給されると思っている方がありましたら、それは大変な誤解です。

国民年金に加入していなくても支給される老齢福祉年金は明治44年4月1日以前に生まれた人（ただし、5年年金、10年年金を受けている方は除く）に限られているもので、その後に生まれた人は国民年金保険に加入し、必要な期間について保険料を納めるか、免除を受けていなければ国民年金保険からは何の年金も支給されません。ですから国民年金に当然加入しなければならないのに、まだ加入していない人は役場窓口でいますぐ手続きをしましょう。



水子は祭ってないはず

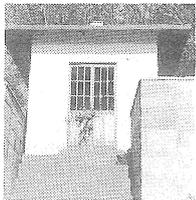
万霊堂のカギの開閉について

声…一筆失礼いたします。実は三界を祭っていますカギを開けておくことはできないでしょうか。

私も水子を祭っていますので、お参りに花と線香を持ってよく行きますが、いつもお参りしてもカギがかかっていて、お水や花をあげることができません。

お盆にだけはきれいに祭ってもらっていますが、ふだんはカギがかかっているため花も枯れ、いつも心を痛めています。戸だけ締めておいてカギは開けておくことはできないでしょうか。（…一町民）

お答え…お問い合わせの施設は長浜山際の



長浜町共葬墓地万霊堂

の長浜町共葬墓地にある「万霊堂」のことではないかと思われるのですが、この万霊堂は海難事故や旅の途中などで死亡された身元不明の方々の遺骨を安置するために設置しているものです。したがって、ご遺族のわかっているものは納めていませんし、その後において身元がわかった場合はご遺族にお引き取り願っています。

また「水子」の場合もここには祭らないことになっています。あなたがお申し出のことで食い違いがございますので、一度ぜひ役場衛生課までご本人が直接ご連絡頂ければ幸いです。

肝心の「カギ」の問題については、大切な故人の遺骨を安置している施設ですから、紛失したり種々の不祥事があってはなりませんため、カギをしているわけですので、ご了承頂きますようお願いいたします。

また、堂内の清掃などについては今後十分注意したいと思えます。

申し遅れましたが、いつもお参り頂いておりますこと、厚くお礼を申し上げます。



春の風物 肱川河口アサリ採り

今月の声

この欄は、あなたの声にお答えする、あるいはあなたの声を紹介するページです。直接おたずねがあったこと、町の中でふと耳にふれたあなたの声もスクープしてあります。お互い生活をしているといろいろなことがあります。とくに町のしごとでわからないことや不満ごと、ご意見がありましたら、このページがあることを思い出して頂き、どうぞご活用ください。



声の箱もご利用ください

まの星

正式には「木造十一面観音立像」と呼ばれ、大正元年九月三日に国宝に指定され、戦後「重要文化財」になりました。

沖浦の観音さん

大字沖浦の瑞龍寺の宝蔵庫にあります。像の高さは一六三・六センチで、ひのきの一本造りです。寺の伝えでは飛鳥時代に活躍した止利仏師（六〇〇年ごろ）の作と言われますが、この像の優美な肉付きと豊かなボリュームをたたえている点は、藤原時代初期（八〇〇年〜九〇〇年）の優品です。

この観音さんは、古く下関の阿弥陀寺（現在の赤間神宮の地）にあったのを、寿永三年（一一八四年）平家滅亡の後、高倉天皇の皇后、安徳天皇の母、平徳子（平清盛の娘）から現在の小田町の清盛寺に施入せられ、のち大洲の如法寺の盤珪国師のもとにうつり、三代藩主の加藤泰恒によって、海上安全の守り神として瑞龍寺が建てられることになり、その本尊としてまつられました。四月十七日は春の大祭で大変にぎわいます。



十一面観音像（部分）

表彰

表彰

津田副団長ほか126人

内助の功章は清水クマ子さん
一般では谷浦さんら5人

消防

次の方々は、消防活動に功績があったことにより、この三月五日に長浜中学校で行われた昭和五十三年消防団出初式の席上、それぞれ表彰されました。

団員

◎消防庁長官表彰(永年勤続功勞章) 津田忠士(今坊)
◎日本消防協会長表彰(個人) 立脇宇之助(青島) 鎌田博郷(長

浜) 石堂栄久(戒川)
◎日本消防協会長表彰(団体) 青島分団婦人消防団員二十二人

◎愛媛県知事表彰 坂田平六(白滝) 石堂栄久(戒川)

◎愛媛県消防協会長表彰 奥野彰一(仁久) 東義博(黒田) 丸井恒男(今坊) 岡田常治(榎生) 河澄奎之助、石山豊、浜川春美(以上出海) 谷浦正(上老松) 平田勝男(白滝) 清水正喜(柴)

◎喜多郡消防団連合会長表彰 日高照友、門川和雄、高田満気、加藤久司、福田初夫、田淵頼彦(以上長浜) 中野健蔵、山本勝利(以上黒田) 笹本智章(沖浦) 山



内助の功賞の
清水クマ子さん

本安廣、田中堅太郎、山本多喜男、植杉岳志、村上一憲、石内豊道、山本俊光、宝生芳正、兵頭義一、村上満宏、角坂健次、西田常男、下坂忠義、城戸義晴(以上榎生) 徳田昭(白滝) 西宮安好(柴)
◎長浜町長表彰 松岡昭夫、高崎文行(以上長浜) 鎌田治幸(沖浦) 坂本高義、池田敏夫、矢野上唯男(以上今坊) 草川勝義、水口健、清水志郎(以上須沢) 垣見芳彦、垣内福夫、浜口儀一郎(以上出海) 渡辺博央、荒木唯善、松田

一般

◎愛媛県消防協会長表彰(内助の功表彰) 清水クマ子(榎生)
◎長浜町長表彰(一般協力者表彰) 谷浦音一(上老松) 成田満山本松造、久保儀隆、丸川薫(以上白滝)

△谷浦さんは伊予長浜駅構内での火災を発見、通報、みずからも消火活動を行い未然に防止。
▽成田さんは白滝の藤本信男氏宅火災発見、みずから消火活動に尽力、初期消火。
▽山本、久保、丸川の三氏は、白滝の橋本隆一氏宅火災発見、みずから消火活動に尽力、初期消火。

出海 村本さんが入選

県「少年の日」記念主張作文

ありがとうノ當川さん。

二月四日は昔の元服にちなんで十四歳を迎える少年少女に志を立て自覚を持たせる「少年の日」。この少年の日にちなんで愛媛県などが広く募集した「少年の日」記念第十二回少年の主張作文」に応募した出海中学校二年・村本佳代さんの作文「隅を照らす人目ざして」が入選、二月八日に八幡浜市民会館で開かれた同八幡浜大会の席上、県、県教委、県青少年育成協議会から表彰されました。

當川さんに
『社会奉仕賞』



願って町内のカーブミラー約六十基の清掃を、昭和四十五年からもう八年間も続けているという白滝の當川一孝さん(四七)の写真に、この二月二十日八幡浜県事務所で行われた受章式の席上、愛媛県知事から「社会奉仕賞」が贈呈されました。

當川さんは昭和三十六年から伊予鉄バスの運転手として、おもに長浜、磯崎間、長浜、豊茂間の路線を走行。当時の道路は舗装が少なく砂利道が大部分であったため

白青の演劇が
最優秀賞

郡青年文化祭で

郡連合青年団の二十周年記念青年文化祭が三月五日に五十崎町中央公民館で開催され、演劇や舞踊など熟演が繰り広げられた結果、長浜町から代表出演した白滝青年団の「うたえ青春」が演劇の部で最優秀賞に、また、踊りの部では「人生大太鼓」が優秀賞に輝いたほか、意見発表や紅白歌合戦でも入賞者が、好成績をおさめました。

共同募金 1,072,367円
歳末は 677,063円

長浜町長
菊地嘉彦
愛媛県共同募金会
長浜分会長
久保七郎

感謝と三報告

共同募金(10月~12月)▷去年より92,091円多い1,072,367円が寄せられ、さっそく愛媛県共同募金会に送りました。この募金は県の共同募金会配分委員会配分され、後日私たちの町へも配分されることになっており、社会福祉の事業や活動に活用されます。

募金内訳は次の通り。
一般募金 516,852円、大口募金 482,300円、バッチ募金 43,800円、その他(街頭、学校、職場など) 29,415円。

歳末たすけあい募金▷皆さんからの一般募金が420,064円、町から178,599円、社会福祉協議会から68,450円の合計677,063円のほか、義援品として正月用もち300個、あずき1kg、さとう2kg、もち米8kgが寄せられました。

なお、今回も長浜幼稚園、昭

和サボア労働組合、長浜仏教会、区長会、婦人会、町議会議員、町職員、そして各法人から特別のご協力がありました。

この義援金は長浜町共同募金会の手で次の通り町内の恵まれない方々に配分され大変喜ばれました。

〔施設入所者〕老人福祉施設8か所の46人に138,000円、児童福祉施設7か所の12人に36,000円、身心障害者救護施設1か所の2人に6,000円、一般救護施設1か所の3人に9,000円。

〔在宅関係者〕低所得者13世帯19人に57,880円、長期療養者25世帯26人に68,000円、寝たきりおよび一人暮らし老人41世帯46人に96,355円、心身障害者26世帯34人に82,708円、交通災害遺児13世帯23人に83,000円、母子父子家庭21世帯53人に90,120円。

交通安全を願って町内のカーブミラー約六十基の清掃を、昭和四十五年からもう八年間も

